

# アセスメントツール「心と身体のチェック」 FAQ

## Q-1 設問の内容について

設問の内容がネガティブ（否定的・消極的）な表現ですが、回答することで生徒に不安な気持ちを抱かせてしまいませんか。

児童生徒が悩んだり困ったりした場合、誰かに相談したり助けを求めたりする力を身に付けることが必要です。また、児童生徒がSOSを出す際、自身の弱さや感じる苦しみを言語化する必要があるため、児童生徒が設問内容のような表現を知っておくことも大切です。

## Q-2 設問数について

設問数が24問ありますが、多くないですか。

設問の24項目は、日常の中での心理的な変化を具体的に表すものであり、児童生徒の状況を把握するためには必要な数と考えます。

なお、「心と身体のチェックリスト」の実施前に、「回答したくない設問については、回答しなくてもよい」ということを、児童生徒に説明してください。

## Q-3 カットポイント（正常と見なされる範囲を区切る値）について

道教委では、リスクのありそうな児童生徒が分かるよう、カットポイントを示してくれないのですか。

児童生徒一人一人の状況は異なることや、総合的な結果からはリスクが感じられない児童生徒でも、複数の項目や設問の結果が高いことも考えられるため、カットポイントは示していません。

複数の教職員やSC等で、「以前と比べて変化している」「教師の見立てと大きく異なる」などの視点で、リスクのありそうな児童生徒かどうかを判断してください。

## Q-4 実施後の対応について

アセスメントツールを実施後、学校では何をすればよいのですか。

実施後、リスクのありそうな児童生徒に対して、教育相談を実施したり、教育相談の結果を踏まえ、当該児童生徒の保護者と懇談をしたりすることなどが考えられます。

また、リスクのありそうな児童生徒については、全教職員で情報を共有するとともに、日常的に観察したり、声かけを行ったりするなど、適切なフォローアップすることが大切です。